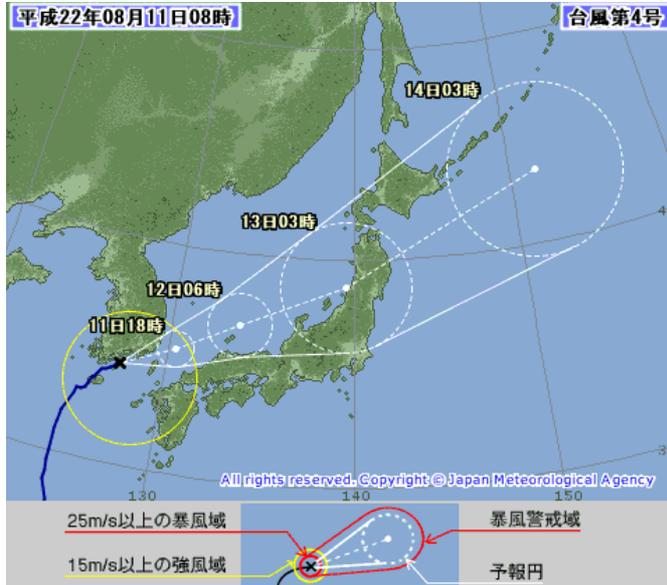


台風4号に対する農作物の技術対策

福島県農林水産部研究技術室



台風第4号は、11日4時にはチェジュ島の北北東約80キロにあって、1時間におよそ25キロの速さで北東へ進んでいます。

今後さらに進路を東寄りに変えながら、12日にかけて日本海を東北東に進む見込みです。11日昼前から夜のはじめ頃にかけて、九州北部地方（山口県を含む）に最も接近するでしょう。

（参考：平成22年台風第4号に関する情報第45号 平成22年8月11日5時38分 気象庁予報部発表）

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

1 水 稲

台風4号の通過時期は多くの地域で水稻の穂揃い期～傾穂期にあたり、台風通過時の強風による傷初が多発や、フェーン現象による乾いた風により稲穂の水分が奪われ白穂となる被害の発生が懸念されます。

（1）事前対策

- ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきましょう。
- イ 台風襲来により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないで下さい。
- ウ フェーン現象に伴う水分の収奪に備え、深水管理を行います。

（2）事後対策

- ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く穂先や葉先を出すよう努めてください。
- イ 浸水・冠水した稲は耐干性が低下しているため、排水後も田面を乾かさず、間断かんがいにより根の健全化を図りましょう。
- ウ 台風通過後は、いもち病の発生が懸念されるので、葉いもちが発生している水田では薬剤散布など防除の徹底を図りましょう。なお、水面施用剤を使用した水田でも、冠水等によりいもち病の多発が懸念される場合は、粉剤等による追加散布を行ってください。
- エ 浸水・冠水した場合、アワヨトウやウンカ類が発生しやすいので、早期発見に努め発生が確認される場合は薬剤による防除を行いましょう。

2 大 豆

（1）事前対策

- ア 速やかにほ場排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。
- イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

ア 表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

イ 紫斑病は、降雨等による多湿条件で発病が多くなるので、開花期後20日頃に薬剤散布を実施しましょう。

3 そば

そばは湿害に弱いので、大豆に準じた排水対策を万全にしましょう。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

(ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害の常習地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

(イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

(ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具(マイカ線、ビニペット等)を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

(エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。

(オ) 施設では、天窗や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

(カ) 雨よけのみのパイプハウス等施設は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

(キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

(ク) は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

(ア) 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材(不織布等)を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。

(イ) 露地きゅうりやインゲンは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。

(ウ) アスパラガスやピーマンでは、フラワーネットと支柱、また、ナスでは支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

(ア) 停滞水は、明渠などで速やかな排水に努めましょう。

(イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、適切な薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

(ウ) 茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。

(エ) 台風通過後は天気が回復するため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

- (ア) 果菜類やマメ類で、損傷を受けた果実は早急に摘果（莢）しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- (イ) 冠水した場合は、圃場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は出入りを極力避けましょう。
- (ウ) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復しましょう。
- (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょ。露地きゅうりでは疫病・炭そ病・褐斑病、雨除けトマトでは灰色かび病、葉かび病等が拡大しやすくなります。その後、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょ。
- (オ) 露地ナス、インゲンでは灰色かび病等が拡大しやすいので直ちに適切な薬剤散布を行いましょ。その後、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょ。
- (カ) スレ果など収穫物の選果・選別には、注意しましょ。
- (キ) 冠水時間が長く回復の見通しがいい場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょ。

ウ 花き

- (ア) キクやリンドウ、シンテッポウユリなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のため液肥の葉面散布を行いましょ。
- (イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

5 果樹

(1) 事前対策

- ア 現在、収穫期に入っているモモ等では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょ。
- イ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにします。
- ウ リンゴのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認します。
- エ 果樹棚（ナシ、ブドウ等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょ。

(2) 事後対策

- ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょ。
- イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょ。
- ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょ。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。
- エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。

- オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。
- カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

6 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎や堆肥舎等の損壊、及び畜舎等への風雨の吹き込みを防止するため、施設の補強を行いましょ。
- イ 飼料用トウモロコシは早生種等で収穫期を迎えつつあります。排水の悪いほ場には明きよを掘削し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょ。
- イ 滞水しているほ場は、明きよなどを点検し速やかに排水ましょ。
- ウ 豪雨によりほ場で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復ましょ。
- エ 飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょ。調製にあたっては、必ず水分調整を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めてください。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。